〔人様式例２２－３〕

休職期間更新に対する意見書

１　職・氏名

教諭　 尾張あまね

２　病　　名

抑うつ状態

３ 意　　見（具体的に観察事項及び意見を記入する）

令和７年度は５年２組の担任として授業・学級経営など児童の指導に精力的に取り組んできましたが、令和７年５月の中旬から一部の保護者から苦情や意見が毎日のように来るようになり、体のだるさと疲労感を感じるようになったと言っていました。

令和７年７月になってからは疲労感がより一層強くなり、十分な睡眠と休養を取るように努めたものの、体力・気力が回復せず、さらにめまいと不眠の症状も自覚され、初診時の病名は「自律神経失調症」とのことでした。

令和７年７月下旬より１０月１４日までの療養休暇を承認して養生させていましたが、なかなか症状の好転が認められませんでした。精神性疾患用の診断書を提出させたところ「抑うつ状態」との診断でした。

医師の診断では「労務に耐えうるだけのエネルギーが無い」とのことで、８月に「Ａ１」の事後措置が指示され、令和７年１０月１５日から休職しています。

休職後は、機会を捉えて本人と面会をし、定期的に電話での連絡を取るようにしています。発症からもうすぐ一年が経過しようとしています。当初は全く休職前の状況と変わっていなかったものの、定期的に医師の診断を受けつつ養生を重ねています。しかしながらまだ現場復帰に耐えうる程の病状回復は認められません。

本人も現場復帰に向けた行動を考えるには至らず、復職にはまだ長期的な時間が必要なものと考えます。

今しばらくの猶予をいただき、十分な休養をされた後に、元気に復職されたいと願います。

　　 　　　令和８年８月１８日

　　 　　　　　　　　　津島市立藤小学校長

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　○　○　○　○

（注）教育長と学校長の意見書は別々に作成すること。